



集会アピール



私たちは、あれほどまでに声をからして訴え続けてきました。原子力発電所は、とても危険でひとたび事故を起こしたら甚大な被害が生じると。

にもかかわらず、原子力村の面々は「絶対事故は起きない。」とうそぶき、東京電力は実施が不可避とされた津波対策を先送りにして3・11を迎えてしまいました。東電幹部には責任をとってもらわなければなりません。

事故でまき散らされた膨大な放射能は、大地や水源を汚染し、人が住むことができない帰還困難地域が広がってしまいました。震災より4年半を迎える現在でも全国に避難されている方が、10万人を超えています。ところが、政府は避難指示を次々と解除し、法令違反の被曝が避けられない汚染地域に無理やり帰還させる棄民政策を進めています。

スリーマイル事故やチェルノブイリ事故を教訓とすることなく、繰り返された福島原発事故で信じられないような苦しみに直面している人々に寄り添って共に闘い、二度と再びこのようなことがないようにすることこそが、私たちの使命だと思えます。

そのために原子力発電所の再稼働を決して許してはなりません。

福井地裁による高浜原発運転差し止め仮処分決定がされているにもかかわらず、関西電力は、使用前検査まで行って再稼働の準備を進めています。法を無視し、福島原発事故の教訓を学ぼうとしない関西電力に原発を扱う資格はありません。

巨大噴火の予知などできないとする火山学者の警告に耳を貸さず、桜島噴火の警報を無視して川内原発を再稼働した九州電力。日本一細長い佐多岬半島からの避難が困難であるにもかかわらず、伊方原発の再稼働準備を加速させる四国電力。再稼働を後押しし、原発輸出のトップセールスで原子力産業の生き残りに手を貸す安倍政権。

しかし、いくら悪あがきを続けても、原発に未来がないことははっきりしました。来年4月には電力小売り全面自由化が待っています。発電コストの高い原発はやがて退場を余儀なくされるでしょう。福井地裁では高浜原発運転差し止め仮処分の異議審が住民側有利で進行しています。脱原発を勝ち取るために、今がまさに正念場です。

当面、川内原発の再稼働を認めない、高浜原発、伊方原発の再稼働を許さない運動に最大限の力を注いで行こうではありませんか。

各種世論調査では再稼働に反対する声がいずれも6割を超えています。すべての原発の廃炉を求めて、さらに大きなうねりを創り出していきましょう。

2015年9月6日

さよなら原発全国集会in京都 参加者一同

